

★衣笠だより～増刊号～

平成26年度全国学力学習状況調査の結果

京都市立衣笠小学校

4月22日に、本校6年生66名を対象に実施された「全国学力調査」について、結果がまとめました。本調査は、国語と算数の2教科のテストと同時に、家庭での過ごし方や学習時間と聞く調査も実施されており、生活習慣と学力との関係など、本校の子どもたちの状況をお伝えします。

総合結果（国語・算数）

国語AB、算数ABともに全国・府平均を上回りました。特に算数B問題は、全国平均を10ポイント以上、上回っています。無回答率についても減る傾向にはありますが、時間が足りずに回答することができない児童もいるようです。ジョイントプログラムもそうですが、時間配分を考えながら最後まで課題に取り組もうとする姿勢を培っていきたいです。

国語科より

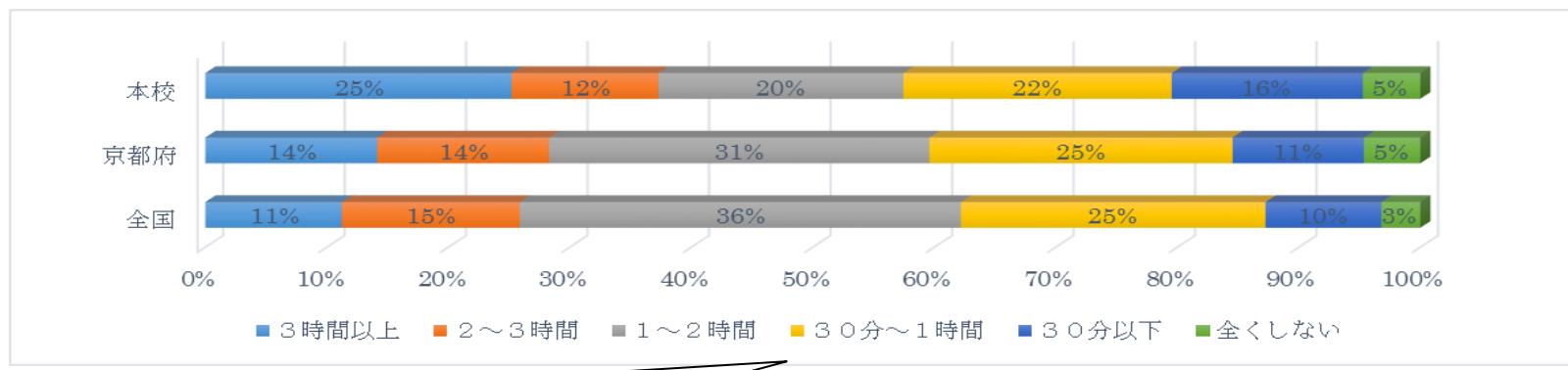
・全体的によくできています。漢字の読み書きは、全国・府よりも上回り、国語辞典の使い方や故事成語については、大きく上回っています。新聞の投書の読み取りについてもよくできており、中学年からの積み上げや社会などの他教科との関連での学びが深まってきたことを感じます。しかし、資料をまとめたり、考えを文章にしたりすることについては、苦手意識を持っている児童もいるようです。いろいろな教科でのノート指導や日記指導などを通して、文章を書く機会を増やすとともに、資料を読み取る機会も増やしていきたいです。また、話し合いに関する問題についても課題が見られるので、各自が問題意識を持って話し合う活動に参加するようにしていきたいです。

算数科より

・全体的によくできています。特に、数量や図形についての知識・理解についての問題や数学的な考え方を記述式で答える問題については、全国・府の平均を大きく上回っています。授業の中で、自分の考えをノートにまとめたり、交流したりしていることを通じて粘り強く問題に向かう姿勢が身についたようです。しかし、使いやすい箸の長さの目安を基に「一あた半」の長さを表している図を選ぶ問題だけが、全国平均よりも低かったです。「一あた半」という言葉に馴染みがないために戸惑つてしまい粘り強く考えられなかったのかもしれません。どんな課題にも最後まで粘り強く取り組む姿勢をこれからも培っていきたいです。

児童質問紙調査から

Q 学校の授業以外に、普段（月～金）、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしていますか（塾・家庭教師含む）



授業以外で「1日3時間以上勉強する」と答えた児童の割合は、全国・府の平均を大きく上回っている一方で「30分未満」「全くしない」と答えた児童は、全国・府の平均よりも多くなっています。調査結果からも学習時間の差が学力の差の原因にもなっていると考えられ、毎日の家庭学習や読書の時間を見直し、自学自習の習慣づけを続けていくことが学力の向上につながっていくと思われます。

【保護者の皆様へ】

全国調査は、子ども達の学習状況を知り、子ども達の可能性を更に伸ばしたり、課題を解決していくためのものです。結果が学力の全てを表しているのではなく、順位を競うものではありません。学力は、学校・家庭・地域での地道な積み重ねにより定着していくものであり、望ましい生活習慣や日々の学習習慣がその基盤となります。今回の結果をみると、学力は着実に伸びてきています。引き続き、ご家庭での子ども達の健やかな育ちと学びの環境づくりにご協力をお願いいたします。